

ドイツの教育制度

久保 実祈

ドイツの教育制度は、日本とは大きく異なる。はじめにドイツの教育制度の説明をしたいと思う。

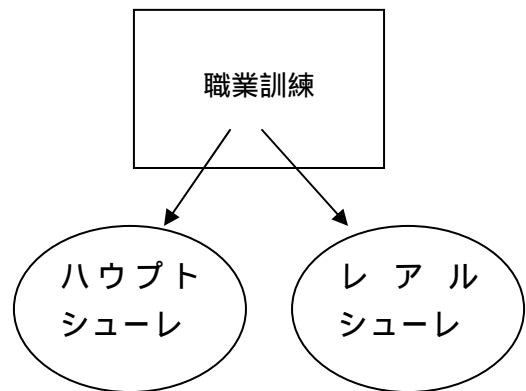
義務教育の年齢（6 歳）に達した子供はグルントシューレと呼ばれる初等学校へと進学し、6 歳から 10 歳まで 4 年間の教育を受ける（日本の 1 年生～4 年生に相当する）。修了後は卒業という形式は行わず、5 年生へ「編入」するという形式で学業を継続する事になる。また、この時に職業教育か高等教育準備のどちらを希望するか、進路選択を行う。

進学	職業訓練	マイスター
----	------	-------

高等教育へ進む事を希望する場合、ヨーロッパ中央部で見られるギムナジウムという 8 年制の長期教育過程へと進学することになる。日本の中高一貫教育に小学校高学年を合わせたような長大なものであり、教育を受ける生徒にとって子供時代の大部分を過ごす重要な場所となる。卒業後はアビトゥーアと呼ばれる大学入学資格を取得する試験への受験資格が与えられる。このアビトゥーアが卒業試験であり、試験合格によって正式に中等教育を完了したと見なされ、日本における高校卒業資格に相当する社会的地位が与えられる。

大学などの高等教育を希望しない、また

は志願できるだけの学力を持たない学生はグルントシューレ卒業の後、労働者としての訓練を受ける事になる。この進路を選んだ場合は、ハウプトシューレとリアルシューレと呼ばれる教育課程のどちらかを選択する場合がほとんどである。



ハウプトシューレ

職業訓練学校のようなもので、義務教育の延長として小学校高学年から中学校に相当する 5 年制教育を受ける。最終学年への進学のみ進級試験がある。ここで訓練習熟度を測った上で、卒業者に日本の中学卒業相当の資格を与える。ギムナジウムへの編入は困難であり、そうした意欲や可能性を持つ生徒はリアルシューレへの進学を希望する為、多くの者は 15 歳前後で就職する。

リアルシューレ

同じく職業訓練学校の教育課程で、期間は 6 年。実務訓練だけでなく高等教育に関する課程も行われる。ギムナジウム進学に失敗したが高等教育を諦めていない人が進

む場合が多い。卒業後は中学卒業相当の資格と同時にギムナジウム編入試験を受ける資格が与えられる。ただし、編入試験はレアルシューレ内の成績優秀者でなければ合格は困難で、多くの生徒はハウプトシューレ同様に労働者として社会に出ることになる。

伝統技術や職人、家業を継ぐ場合。

以上が、ドイツの教育制度である。しかし、近年ドイツの教育事情で、この教育制度を含め多くの問題が起きている。

問題点

一つ目は、教育格差。親なら誰でも子供が行きたい進路に行かせてあげたい。それ故に、ドイツではモンスターペアレントが増加している。この3つの選択の中で一番は進学を選ぶ人が圧倒的に多い。12歳で人生が決まってしまうのだから将来の選択肢の多いに行きたいのは当然のこと。しかし成績が良くない生徒はを選ぶことができず、結果に進むことになってしまう。そこで子供を進学させたい親は、テストの難易度を下げろといった無理難題な要望を行い、実際、学力が低下しているという問題が生じてしまっている。近年では12歳で人生が決まってしまう複数型の学校制度に疑問を持ち、アメリカや日本のような単線型に近い教育制度の方が良いのではないかという声も挙がっている。

二つ目は、授業料問題。ドイツでは大学が3年間で学士を習得する。従来ドイツの大学は授業料が無料だったが、いくつかの州では授業料が導入された。日本と比べて

学費は安いものの、ドイツの場合、大学入学と同時に一人暮らしをするのが一般的で、親は学費援助をしないことが多いようである。その為、アルバイトなどで学費調達を余儀なくされ、困難な大学の課程がまた学生達を追い込み、学生達のストライキなどが発生している。

三つ目は、卒業後の雇用問題。ドイツの学士修得は3年（日本やアメリカは4年）。どうして1年ドイツの方での学士修得が早いのかというと、若者が早く就職することができるようになることが理由として挙げられる（この他にも、旧制度の5年を全体として維持したかったのと、男子は1年間の兵役義務が廃止されたことが影響しているのだらう）。そして何が問題かということ、企業が学士卒業者を雇用したがない傾向が強まってきているということ。そして旧制度と同じ5年の修士号を求める企業が多くなっている。従来過程では、一度大学に入ってしまうと5年間の学習が可能であったが、現在の制度では学士から修士と区切られていて、修士課程への入学には別途試験を受ける必要がある。これが学生の新たな負担となったり、また希望通りに進学できない事態が発生したりしている。

まとめ

ドイツの教育制度を今回研究報告にしようと思ったきっかけは、ホームステイ中にヴァレリーから大学のことを聞いたときだった。それまではドイツの教育制度についての知識は皆無であり、ヴァレリーから聞くドイツの教育制度はとても興味深かった。12歳という若さでいきなり人生を大きく左右する3つのコースを選択しなければ

ならない事が信じられなかった。本当にドイツでは幼いころから自分で選ばせ、自立意識を高めるのだなと感心した。さらに、日本では大学入学までが難しいのに対し、ドイツでは大学入学後の方が難しいというのを聞いて、国の教育制度によってこんなに異なった点が挙げられるのは、興味深い。日本の制度、ドイツの制度、どちらもメリット、デメリットはあるが、果たしてどちらの制度が合理的で良いのであろうか。他の国々の教育制度も機会があればまた調査したいと思う。今回のドイツ訪問に際し、自分でテーマを決め、そして調べるというのはとても大変ではあったが、その反面、自分の興味があることを調査して形にするという作業はとてもやりがいを感じた。まだまだ至らないところがあるが、このドイツでの経験を単なる旅行ではなく、研究として形にできたことに感謝する。

参考資料

ドイツと日本の教育制度の違い

<http://www.city.kaminoyama.yamagata.jp/shomu/kokusai%20new/new%20page/kyouikuseido.htm>

ドイツの教育問題

http://d.hatena.ne.jp/paco_q/20090618/1245298079

ドイツの職業教育とマイスター制度

<http://www.geocities.jp/monomegu/2.html>

ドイツの学校

<http://germanml.fc2web.com/school/schoollocal.htm>